

小学校教員養成課程におけるディベート学習の 実践と評価の試み

和井田節子・小泉晋一・田中卓也（共栄大学）

キーワード：ディベート学習、アクティブ・ラーニング、クリティカル・シンキング
小学校教員養成

1. 研究の目的と方法

和井田 節子

共栄大学教育学部では、2 年次必修演習科目「教育学基礎演習」（半期・1 単位）の中の「活動の時間」（全 5 時間）で、クリティカル・シンキングや論理的で説得力のある表現力育成などを目的に、探究型ディベート学習を行っている。課題解決型の能動的学習（アクティブ・ラーニング）が次期学習指導要領に入れられる動きがあり、教育学部の学生にアクティブ・ラーニングを指導する力を育てることも必要になってきた。

本研究では、2014 年から 2015 年にかけての授業記録とアンケート結果、テーマに基づいた小論文の分析をととして、ディベート学習の教育的効果と課題の整理・評価を試みる。

ディベート学習の流れ

1 時間目：オリエンテーション。3、4 人で 1 チームになる。目的と方法の理解。

2 時間目：ディベートのテーマ・立場（肯定側か否定側か）・対戦チームとディベート実施日を決定。対戦チーム間で論点整理。準備計画をたてる。資料集め。立論や質問等を整理したバランスシートを各グループで作成することと、そのテーマで各自が小論文を書いてくることが次回までの課題。

3 時間目：教員からバランスシートのチェックを受ける。各自、担当するテーマによる小論文提出。ディベートのリハーサルと準備

4 時間目：ディベート実施 1。添削され返却された小論文を書き直し次回までに再提出。

5 時間目：ディベート実施 2。小論文を提出。

2. 自己評価にみられるディベート学習の効果（量的検討）

小泉 晋一

2015 年の「教育学基礎演習」の開始後（5 月）と終了後（7 月）にアンケートを実施した。アンケートはディベート学習による教育的効果についての自己評価（10 項目）と自由記述であるが、ここでは自己評価の結果を報告する。評価項目は、過去 2 年間の受講者の感想からディベート学習によって得られたスキルと考えられる内容を抽出して、それを 10 項目にまとめた（項目の内容については発表当日に資料を配布）。そして開始前のアンケートでは、10 のスキルをどれだけ持っていると思うかを受講者に 5 件法で評価させ、終了後には、これらの 10 のスキルがどれだけ習得できたと思うかを同様に評価させた。

開始後と終了後との比較する前に、まず開始後の 117 名分の有効回答を用いて因子分析を行った（重み付けのない最小二乗法、直接オブリミン回転）。複数回の因子分析を試みた結果、「多面的に物事を判断できる」などの 4 項目に高く負荷する因子（「知的スキル」の因子）と、「グループのメンバーの意見をまとめることができる」などの 3 項目に高くする因子（「社会的スキル」の因子）との 2 因子を抽出した。「知的スキル」の因子は、開始後の平均値が 12.67 ($SD=2.68$) で終了後が 13.92 ($SD=2.50$) であった。「社会的スキル」の因子は、開始後の平均値が 10.94 ($SD=2.04$) で終了後が 11.15 ($SD=2.07$) であった。これらの結果について t 検定を行ったところ、「知的スキル」の因子で 1%水準の有意差が認められた ($t(100)=-4.14, p<.01$)。受講者にとって、知的スキルの向上は実感されたようだが、社会的スキルについてはそのようには感じられなかったようである。ディベートの準備までの回数が少ないことや、今後は授業外での話し合いの時間をもっともつように働きかける必要があるともいえる。

3. ディベート学習取り組み前と取り組み後における学習効果

田中 卓也

2. 「自己評価にみられるディベート学習の効果」（量的検討）につづき、ここでは「自由記述」（質的検討）を中心に報告したい。2015 年 5 月に実施した「教育学基礎演習」開始後の 5 月と終了後の 7 月に 2 度アンケートを実施した。117 名の有効回答が得られた。

ディベート実施前のアンケートの自由記述における回答の特徴として、「ディベート」について、大方の学生に「将来的に役に立つ」、「小学校教諭にはコミュニケーションがとても大切であるから、必要である」、「プレゼンテーション能力向上の一環として大切」などの回答が目される。いずれの回答においても、学生にとっては役立つものであるということ、将来に小学校教諭のような職業に就くにあたり、持っていたほうがよい技術であるという理解であることがうかがえる。しかしながら、ディベート実施後のアンケートの記述について見ると、「ディベートにのぞむにあたって、準備時間が足りない」、「チームワークの大切さを感じた」、「〇〇さんのディベート力で勝つことができた」などの回答が見られる。

かくして自由記述欄からは、ディベートの学習効果については、クリティカル・シンキングの力が付いたという記述は少なかった。むしろ説得力のある話し方を学んだという意識の方が強く、自らの将来にとって必要程度のもので止まっているよう伺える。ただし、協力して相手チームを論破しようとする中で、協同の力が鍛えられたことはうかがえた。ディベートの目的をこれまで以上に明確にすることと、準備時間をより多くとることが求められよう。またディベート終了後においても、ディベートのグループでしっかり「ふりかえり」を行い、クリティカル・シンキングの深化をはかる必要があるように感じている。